

令和元年度 倉敷教育センター第1回運営委員会 会議録

1 日 時 令和元年7月17日(水) 10:00~12:00

2 場 所 倉敷教育センター研修室

3 出席者

・委員(15名)

委員長 西田 恵介

副委員長 藤井 朗

委員 横田 昌子(欠席) 中田 和子 竹岡 浩志(欠席)

西 千秋 越宗 哲生 溝手 恵里(欠席)

門田 昌子 白神 繁子(欠席) 三谷 育男

浅沼 健一 松崎 晃 太田 久恵

東山 邦香

・事務局(7名)

市教委指導課 課 長 笠原 和彦

教育センター 館 長 有森 真理

指導主任 影山 勝 村中 千春 池田 真弓

森廣 隆之 才野 博紀

4 説明及び協議

(1) 研修講座について

○事務局より説明

○協議

委員長 倉敷教育センター主催の研修は、ライフパーク倉敷を主な研修会場にしていると思うが、ライフパーク倉敷の貸出し状況についてはどうか。

委員 学校教職員の研修として使うことが多い。また最近では、自分たちでグループを作り体操教室を実施するなど、健康づくりを目的とした会議室の利用が増えている。

委員長 研修会場の確保で苦労していることはあるか。

事務局 研修の受講者数が増えると、同日に何人も出張に出ることが学校運営上難しくなる。その対応として、研修日を複数設定し、選択できるようにしている。ただ、そうすると、多くの会場確保が必要になるため、ライフパーク倉敷だけでなく、支所の会議室等を借りて研修を実施している。また、夏季休業中は様々な研修が多く設定されているため、会場予約を取る 것이難しい。さらに、中学校は始業式が早くなっているなど、夏季休業中の研修実施が可能な期間が短くなっているため、研修日程や研修内容も包括して改めて考え直していかなければならない時期になっていると考えている。今後ど

のようにしたらよいのかを探っていきたい。

委員長 夏季休業中に倉敷教育センター主催の研修がかなりあるが、学校独自の校内研修は実施できているのか。以前ほど学校独自の研修は時間の関係もあって実施できにくくなってきている現状があるのではないか。

委員 勤務校では、特別支援教育、情報教育、教育課程の反省等を今年度行う予定である。また、校内研修ができにくい分、校外での様々な研修を校内研修に替えて参加してもらおうようにしている。

委員長 大学の先生も研修はあるのか。

委員 自己の学びを求め、学外に出て行くこともある。

委員長 中学校の始業式が早まり、研修の計画が難しいとのことだったが、小学校は将来的にエアコンが設置されるのか。もし設置されたら、小学校も始業式を早めることになるのではないか。

事務局 中学校では始業式を早めている。それは、授業時数の確保のことも関係している。真備地区の小学校には、本年度の夏休みまでに全てエアコンが設置される。そして、箭田小学校と川辺小学校はこの3月に引越しの予定のため、授業開始日を早め、引越日には児童は休みになるよう計画を立てている。ただ、2学期の始業式が早くなった場合、暑い中、小学校1年生が登校することは安全面としてどうかという声もある。小学校にもエアコンは設置されるが、始業式を早めることについては、中学校の動向も見ながら考えている状況である。

委員長 倉敷市少年自然の家が改修工事により、初任者研修の宿泊研修ができなくなると思うが、他の場所を実施するのか。

事務局 今調整中である。倉敷市内の他の場所で宿泊研修を実施するのは難しいと思っている。方向性としては、倉敷市少年自然の家の2年間の改修工事の期間中は、宿泊をせず、研修内容を工夫して対応することを考えている。

委員長 倉敷市少年自然の家の改修工事は、全面改装なのか。

委員 体育館といろりの家は残し、後は全て建て直しをする。体育館については耐震改修を、いろりの家は一部改修をする。空調設備も設置される。「自然の家」という施設であることから、本来は自然という視点を大切にしたいが、熱中症対策等も考えていかないとけないと考えている。

(2) 適応指導について

○事務局より説明

○協議

委員長 不登校の生徒・保護者にとって心配事は進路だと思っている。ふれあい教室の卒業生の中で倉敷市立高等学校へ進学する生徒もいると思うが、現在の倉敷市立高等学校にはどのような生徒が在籍しているのか教えてほしい。

委員 倉敷市立高等学校は5校あるので、それぞれ実態は違うと思うが、中学校時代に不登校であった生徒が非常に多いと思う。6月に生活体験発表会を行ったが、その発表している生徒の半数以上が中学校で不登校を経験している。高校に入ってから学校に来ることができるようになった話も本人から聞いた。特に本年度の1年生は不登校経験のある生徒が非常に多いが、現在はその1年生もほとんど休むことなく学校に来ることができている。その理由は3点あると考える。

一つ目は高等学校入学を目標に、自分を変えようと受験し合格したため、頑張ろうという意欲をもって登校してきている。

二つ目は、中学校までは朝起きられず、昼頃起きて学校行こうかと思っても行くことができないというスパイラルに陥っていた生徒が、夜間高校は夕方5時から始まるため、それであれば行こうかという意識を生徒がもち、よいリズムにつながっている。

三つ目は教室にいる生徒数が少ないので、少人数集団の中で、ゆったりとした授業のペースで学習することができる。しかもチームティーチングで行われているため、先生にしっかりと見てもらうことができ、やる気につながるという相乗効果がある。

そのような点が合わさって学校に継続的に来ることができるようになってきている。

委員 真備教室は真備福祉会館の3階にあるが、昨年度7月の豪雨災害で、真備支所も約4メートルの高さまで浸水したため、地域住民の方が一時的に真備福祉会館に避難された。支所が再開になったら今まで通りふれあい教室に生徒が通ってほしいと願い、室内にあるものがなくなったり物が移動したりして生徒が混乱しないよう、真備支所の判断で避難場所としての開放はしなかった。被災者の中には廊下にマットを敷いて過ごした方もおられたが、誰一人「あそこの部屋が空いているのではないか。入らせてほしい。」などという人はいなかった。真備の方は本当に大変な思いをされたが、ふれあい教室について理解をしていただいていたと感じた。

委員長 不登校の児童生徒は様々な状況にあるが、義務教育段階での支援は充実していると思う。しかし、卒業後の子ども、特に引きこもりの子どもについて大変心配している。そのような子どもは、現在倉敷市に何人くらいいるのか、またその方々に対してどのような支援をしているのか。

委員 倉敷市内では引きこもりの対応をしている部署は何か所かあるが、引きこもりの方の正確な数は出ていない。国が出している統計等もあるが、概数でしかないため、明確には分からない。

引きこもりに関する相談件数はここ3年、あまり変化はない。相談してこられる対象者の年齢は様々であり、学齢期の方も高齢の方もおられる。保健所では、引きこもりの原因として精神障害が疑われる方を医療期間に結び付けたり、支援者の方に紹介したりしてい

る。

委員長 不登校や引きこもりの人を社会的自立に結び付けるかが大切だと思う。障害のある方の社会的自立も大切だと思うが、それを目指すために、特別支援学校ではどのような支援をしているか。

委員 特別支援学校は、自立と社会的参加を目指す学校であるため、そのような指導・支援は常に大切にしている。また、個に応じた支援はもちろんのこと、全体の方向性として開かれた教育課程を目指し、社会で豊かに生活できる子どもの育成を目指している。学校の中で閉ざすことなく、地域にしっかりと出かけていき、地域で体験的な活動をしていくように取り組んでいる。そのような経験を通して、学校教職員はもちろんのこと、地域の方々から認められることで自己肯定感を高め、児童生徒の将来への社会的自立につなげていきたいと考えている。

(3) 教育相談・教育情報・施設利用について

○事務局より説明

○協議

委員 書籍の貸出しの説明の中で、文部科学省著作教科書「通称☆本（ほしぼん）」を貸し出していると言われていたが、特別支援学級の先生から☆本を見せてほしいと支援学校に依頼がある。倉敷教育センターで貸出しをしていることを知らない先生もいるのではないかと思うので、研修等に来られたときに☆本があることを伝えていただければ、授業の参考になるのではないかと思う。令和2年から☆本の改訂版が出て、さらに指導書も出ると聞いているので、指導書も倉敷教育センターでそろえていただければありがたい。

委員長 倉敷教育センターでの相談の様子は説明からよく分かった。同じような市の相談機関の中に青少年育成センターもあるが、そちらにはどのような相談内容が多いのか。

委員 中・高校生はメールでの相談が多い。保護者からは、不登校や家庭内暴力の相談が多い。特に本年度は高校生の不登校の相談が増えている。原因をたどっていくと、家族関係が長年影響して不登校になっていることが多い。すぐに解決というわけにはいかないのに、長い目で見ることがある。

委員長 西田 恵介



副委員長 藤井 朗

